



城陽市歴史民俗資料館

友の会だより

編集発行：城陽市歴史民俗資料館友の会
〒610-0121 城陽市寺田今堀1番地 城陽市歴史民俗資料館
TEL0774-55-7611 FAX0774-55-7612 www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/
発行日：令和4(2022)年12月25日



「友の会だより」発行第50号に寄せて —会員による新たな投稿欄—

城陽市歴史民俗資料館友の会
会長 泰地 賢治

今回、お手元にお届けする「友の会だより」は、第50号の節目の号となります。

思い起こせば、2003年11月に城陽市歴史民俗資料館友の会が誕生し、その会誌として「友の会だより」の第1号が発行されたのは2004年3

月1日でした。その後、毎年2回から3回の発行を重ねて現在に至っております。

具体的な発行状況（発行の年度とその回数）は以下の通りです。

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
回数	2	4	2	3	2	3	3	3	3
年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
回数	2	3	3	3	3	3	3	1	2

（2020年度は、新型コロナウイルスの感染が拡大したため十分な活動ができませんでした。尚、2022年度は2回の発行となります）

「友の会だより」は、これまで友の会が主催・共催する行事の紹介やその行事にご参加頂いた方々の感想、城陽市歴史民俗資料館の展示や行事の案内、勾玉教室をはじめとする各種教室におけるボランティア活動の様子、その時々話題など多岐に亘る記事をお届けしてきました。

一方、友の会自体も来年11月には創立20周年の節目の年を迎えます。これを機に「友の会だより」が友の会の会誌として有意義であるためにはどのような内容をお届けすればよいか改めて考え、より充実した内容で今後に繋げたいと思っています。

今回、役員会の中で色々と検討した結果、その一環として「友の会だより」が会員相互の交流と親睦を深める手段として会員の皆様にとってより身近なものになるように、新たに「会員の自由な

投稿欄」を用意いたします。友の会へのご意見、ご要望、会員自らの趣味、その時々思うことなどお寄せください。会員の皆様の中には、打ち込んでおられるテーマや趣味をお持ちの方も多くと存じます。「友の会だより」を契機として同好の士とお会いできるかもしれません。

新しい投稿欄と一緒に育てていきませんか。会員の皆様の投稿をお待ちしています。

**歴史民俗資料館 常設展示室
古文書の展示は年4回
展示替えをおこなっています。**

歴史民俗資料館常設展示室の古文書展示に関しては資料館保管の古文書を年4回更新／展示「(解) 釈文付き」しています。

春季：農村の様子等の古文書を中心に
夏季：洪水をはじめ自然災害の記録等
秋季：地域の祭礼等の史料を中心に
是非ご覧ください。

終末期古墳について

—城陽歴史民俗資料館友の会 第54回研修見学会資料から—

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
小泉 裕司

1) 終末期古墳とは

終末期古墳は、概ね6世紀末～8世紀初めに築造された古墳です。墳形は方墳や円墳の他に八角形墳があり、埋葬施設には切石を使用した横穴式石室や横口式石槨を採用しています。横穴式石室は羨道と玄室をもち、玄室に石棺や木棺を納めています。玄室は基本的に広いスペースがあり、床面には石材がありません。横口式石槨は壁・天井・床を石材で構築し、棺を納めるスペースしかありません。横口式石槨の前に羨道や前室をもつものもあります。このような終末期古墳に葬られたのは、ヤマト王権の大王(天皇)及び大王家一族(皇族)やヤマト王権の中枢を担う有力首長と考えられます。

(2) ヤマト王権内での終末期古墳の変遷

6世紀末～7世紀前半には、岩屋山古墳(明日香村)に代表される精美な切石加工された石材で構築される切石積横穴式石室をもつ古墳が築造されます。一方、石舞台古墳(明日香村)に代表される巨石で構築される巨石積大型横穴式石室をもつ古墳も築造されます。

7世紀中ごろ～7世紀後期前半には、牽牛子塚古墳・越塚御門古墳(明日香村)に代表される巨石を削り抜いて石槨を構築する削抜き式横口式石槨をもつ古墳が築造されます。

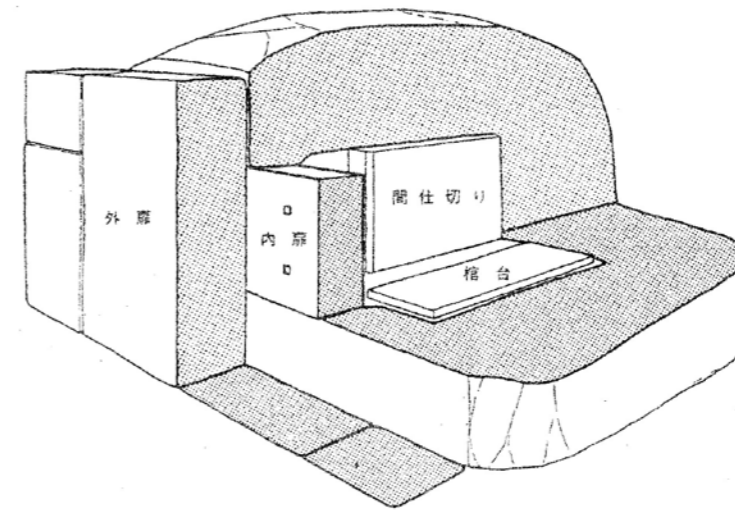
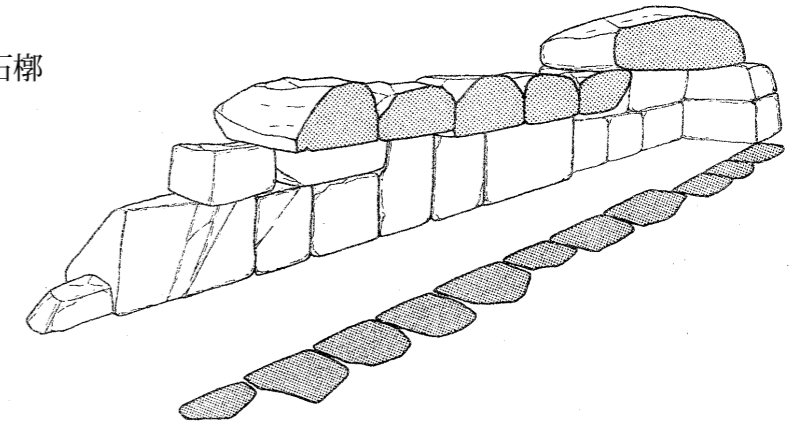
7世紀後期後半～8世紀初頭には、野口王墓(天武・持統天皇陵)古墳・高松塚古墳(明日香村)に代表される板石状に加工された切石を組み合わせる組合せ式横口式石槨をもつ古墳が築造されます。

(3) ヤマト王権内での石室・石槨の変化とその要因

6世紀末～7世紀前半の切石積横穴式石室は、前方後円墳に替わる新たな権威の象徴として、大王及び大王家一族により採用された埋葬施設と考えられます。また、巨石積大型横穴式石室は、ヤマト王権の中枢を支える有力首長の中から台頭した蘇我氏や物部氏はその勢力の大きさを誇示するため、旧来の横穴式石室を大型化したと考えられます。

7世紀中ごろ～7世紀後期前半の削抜き式横口式石槨は、乙巳の変(645年)による蘇我本宗家の滅亡を契機に、大王及び大王家一族により採用されたと考えられます。大王が新たな権威の象徴として、従来にはない埋葬施設を創造したと考えられます。

牽牛子塚古墳 横口式石槨



岩屋山古墳横穴式石室

7世紀後期後半～8世紀初頭の組合せ式横口式石槨は、壬申の乱(672年)による政権交代にともない埋葬施設の刷新が行われ、大王及び大王家一族や律令制度に基づき官僚化した有力首長により採用されたと考えられます。

(4) さいごに・・・牽牛子塚古墳を見学して思ったこと

牽牛子塚古墳は、発掘調査を経て史跡整備が行われ、築造時の姿に復元されました。大王(天皇)墓の可能性のある終末期古墳の本来の姿を実体験できる貴重な歴史学習の場所となったことは喜ばしく感じました。その一方で、中学生の時に初めて牽牛子塚古墳を訪れ、石槨の中をのぞきこんだことを思い出すと、築造から1300年以上経た古墳の姿もそれなりに趣があったなと一抹のさみしさを感じるのは私だけですかね……………。

橿原市〔新沢千塚古墳群〕を訪ねて

古墳築造当時にタイムスリップしてきました

城陽市歴史民俗資料館 埋蔵文化財調査員

藤井 咲子

本年5月より埋蔵文化財調査員としてお世話になっております藤井です。どうぞよろしくお願いたします。

さわやかな秋晴れとなった11月5日、飛鳥の古墳を巡る研修見学会に同行させていただきました。往路のバス中では、早速、(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの小泉裕司氏による事前講義があり、参加者の皆様は、これから見学する古墳の違いや見どころなどを熱心に聞いていらっしゃいました。

橿原市博物館では、現地ボランティアガイドの説明を受けながら見学しました。4～6世紀に造られた新沢千塚古墳群のうち最も有名な126号墳から出土したガラス製碗や金製垂飾付耳飾などの副葬品、藤原京域から出土した多種多様な遺物の素晴らしさに、飛鳥の地の歴史の深さを感じました。新沢千塚古墳群は公園として整備されており、その数百の古墳に囲まれて、それぞれ思い思いの場所で昼食をとりました。

次に向かった与楽カンジョ古墳は6世紀末～7世紀前半頃に造られた古墳で、石室は巨石を組み合わせたドーム状になっていて、床面には礫が敷かれています。石室の幅に対して天井がとても高いのが印象的でした。

牽牛子塚古墳の石槨は1個の大きな岩を削り抜いて造られており、中央を間仕切りで仕切った合葬墓で、その発掘調査成果や隣接する越塚御門古墳の存在を『日本書紀』の記述と照らし合わせることで、牽牛子塚古墳の被葬者が斉明天皇と間人皇女である可能性が見えてきました。復元整備され、真っ白な切石が貼られた八角墳を見上げていると、まるで築造当時にタイムスリップしたかのような錯覚に陥ります。

近鉄飛鳥駅から牽牛子塚古墳へ向かう道中にある岩屋山古墳にも立ち寄りました。大きな切石を隙間なくピッタリと組み合わせた石室は、大阪府太子町にある聖徳太子の墓といわれる叡福寺北古墳と同じ組み方とされます。聖徳太子との関わりがあるのではないかという小泉氏の説明に、誰もが興味津々の様子でした。

今回、皆様と一緒に友の会研修見学会に参加し、築造年代や被葬者によって見られる古墳の造りの違いを実際に見て比較できたことは、とても有意義なものでした。ありがとうございました。



牽牛子塚古墳前で、参加のみなさんと記念写真

城陽の古墳とヤマト政権

在地勢力とヤマト政権との関係の考察

城陽市歴史民俗資料館友の会会員 佐藤 公美

城陽には約200基の古墳があり、「古墳の町」といわれる。その中で重きをなす上大谷古墳群・芝ヶ原古墳群・久津川古墳群・芝山古墳群について在地勢力とヤマト政権との関係を考察してみたい。

古墳時代は3世紀末ないし4世紀初めから7世紀まで続く。4世紀代の前期・5世紀代の中期・6世紀代の後期に区分される。

前期には弥生時代に始まった農耕が鉄器の普及・農地の拡大・灌漑技術の発達などによって本格的な農業生産にまで進み、生産量の増加による経済力の上昇を基礎に司祭的首長が地位を固定させ、勢力を掌握して地方豪族となった。

城陽においては、周囲に肥沃な可耕地を持ち安定した農業生産力を持つ豪族は上大谷古墳群・芝ヶ原古墳群・長池墳丘墓など自然丘陵などを利用した方墳・前方後方墳を築造した。

さて、ヤマト政権は4世紀から7世紀にかけて大和地方を中心に日本を支配するようになる。古墳時代前期のヤマト政権は地域の首長に各々の地域支配を委ねた。史料の上でヤマト国家が明瞭に表れるのは、4世紀に南朝鮮を支配する頃から鉄や帰化人によってもたらされた諸種の技術を独占することでその権威と権力を確立した。5世紀「倭の五王」の頃には東北を除き全国を支配したらしく、古墳は全国に見られる。「倭」は中国・朝鮮で用いられた日本の古称、「王」は天皇である。

城陽では4世紀後半に梅の子塚古墳が前方後円墳で築造された。これらはヤマト政権との関係を持つ在地豪族の墳墓で、史跡森山遺跡にはその被葬者の居館の遺構が見られる。

5世紀には南山城の大首長で地域最大の前方後円墳久津川車塚古墳及びその補佐や有力首長等の久津川古墳群が大谷川によって形成された扇状地(平地)に築かれ、ヤマト政権との結びつきを示している。それらは権威を表すため大規模で前方後円墳や円墳が多い。

5世紀後半以後、地方豪族が樹立した部落国家は、ヤマト政権の経済的・軍事的基盤の安定と各集落の生産性の向上とが相まって次第にヤマト政権に組み入れられていく。

6世紀には、地域はヤマト政権の直接支配を受け、大規模集落は解体され、地域豪族の中規模前方後円墳が消失する。

6世紀以後には世襲王制が確立する一方で、諸豪族は階層的に臣従するようになる。この頃の古墳は朝廷から派遣された者や地方豪族に服従した者のもので墳丘は小型化し、立地は自由になり、大規模な前方後円墳を中心に群集する傾向がある。

城陽の芝山古墳群は梅の子塚古墳の周囲に5世紀から6世紀まで低方墳から低円墳に変化しながら築造された。また6世紀には有力家族集団や新有力者の群集墳が上大谷や芝ヶ原に築造される。

このように城陽は、古墳時代全期に亘って築造された古墳が見られる「古墳の町」である。

【参考資料】城陽市発行古墳関連諸資料・城陽市講演会資料(小池寛、小泉裕司、浅井猛宏各氏)・大久保正「古事記」(さ・え・ら書房)・石ノ森章太郎「古事記」(中公文庫)・神明館蔵版「天皇・年代歴表」・高柳光寿、竹内理三編「日本史辞典」(角川書店)



記念講演会がひらかれました

演題：共存する二つの勢力
—長池古墳・芝山古墳群と久津川古墳群—

日時 7月10日(日) 13:00 - 15:00
場所 文化パルク城陽(西館3階) 第3会議室
講師 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
調査課長 小池 寛氏
定員 40名

古文書講座の履歴及び受講者のご意見

城陽市歴史民俗資料館友の会 古文書講座担当 村上 弘芳

歴史民族資料館と友の会が共催で実施してきた「古文書講座」の履歴と受講者の方々からのご意見を紹介します。但し、ご意見は直近2回分です。

1. 「古文書講座」の開催実績：(2012年のみ5回、その他は4回/各講座)：

2012年：方丈記 2013年：伊勢物語 2014年：御伽草子
2015年：伊曾保物語 2016年：徒然草① 2017年：徒然草②
2018年：醒醉笑① 2019年：醒醉笑② 2020年：中止
2021年：更級日記 2022年：土佐日記

*講座実績は10回を迎え、受講者は延べ約1,000人を数えます。

改めて長年にわたり当講座の講師を務めて戴いた「歴史民俗資料館/古文書及び民俗文化財調査員」の田中香織さんに深謝したいと思います。

2. 古文書講座に関する受講者からのご意見：

2-1) 更級日記に対するコメント：

- 当時の風俗・習慣等がよくわかるので、歴史小説やTVドラマ等を見る時によく理解できます。(見方が変わりました)
- 年に2回開催して戴きたい。
- 読み方及び書き方も練習したいです。
- 資料が充実していて大変参考になります。後から見直しても楽しめます。有難うございます。
- 教科書で少し触れただけの「更級日記」に数十年ぶりに巡り会い、こんな内容だったんだと感激しています。また、この様な講座を宜しく願います。ありがとうございました。
- 次回も宜しく願います。楽しく勉強させていただきました。
- 楽しいご講義ありがとうございました。来年もよろしく。
- 参加費は会員で1,200円位が適当だと思います。友の会より5千円位の補助は出すべきと思います。(会員継続や新規勧誘の為にも)
- なじみの多い方丈記や太平記なども――。
- 物語に出ていた源氏物語も知りたいと思います。現代語訳でのみ読みましたので――。
- 城陽地区を中心に、南山城地域での農民生活を知る古文書を願います。全国区の古文書には余り興味がありません。
- いつもの様に周到な準備をされて作成される資料関係は目を見張るものがあり、今回も予想を裏切らないものでした。講義の後でも自分の好きな時に復習が可能となります。有難うございました。

2-2) 土佐日記に対するコメント：

- 平家物語を勉強したい。
- 今回、初めて参加させていただきましたが、楽しく聞かせていただきました。昔、習った事を思い出しながら分かる文字、又土佐日記の内容アットという間に終わってしまった様に思います。もっと早くから参加させていただけたらと思いました。次回も都合が合えば参加できたら…と思っています。ありがとうございました。
- 古典も良いが地名の古文書でも良いと思います。
- 源氏物語の古文書は有りますか。
- 古文書に興味をもっていますが、かな文字の解読の難しさにもっと勉強せねばと改めて思いました。近世の文書の解読とその背景についての講座があればと思っています。
- ご丁寧な説明と資料で楽しく読めました。「過」の字が読めなかったということはまだまだです。頑張りたいですので、今後ともよろしく願います。
- 臨場感あふれる解説で、楽しく理解できました。
- 添付資料が多くて準備も大変だったと思います。そのお蔭で内容もよく理解できました。有難うございました。

*古文書講座は歴史民俗資料館のご協力も得て、友の会としましても出来れば継続したいと考えております。引き続きご支援をお願い致します。

以上

2022年6月5日に開催しました文化財講演会について興味ある記事が出されましたので、その全文をご紹介します(京都新聞6月6日山城版20面)。

城陽で講演会 小樋尻遺跡 発掘成果を報告

―弥生末期～奈良時代 竪穴建物など発見

城陽市の最新の文化財情報を紹介する講演会が5日、文化パーク城陽で開催された。小樋尻遺跡の発掘調査の成果をいち早く市民に届けるため、市歴史民俗資料館と同資料館友の会が共催。定員40名の会場は満席となり、訪れた人は遺跡への理解を深めた。

同調査は国道24号の拡幅事業に伴い実施された。講演会では2021年度の調査地である新池の交差点から西へ約200メートルの地点の発掘成果として、弥生時代末期から奈良時代までの竪穴建物2基や掘立柱建物1棟、井

戸2基といった遺構が見つかったことが報告された。

講師を務めた府埋蔵文化財調査研究センターの小泉裕司さんによると、17年の消防庁舎の移転に伴って行われた発掘調査では同時代の集落跡が発見されており、今回の調査結果によって集落が点在していたことが分かったという。

新型コロナウイルス禍で講演会が中止された20年度の調査報告も併せて行われた。(杉山奈々)

古典サンスクリット (以下 skt. とする) で解く 古事記の大八島 ②

城陽市歴史民俗資料館友の会会員 高橋 正典

(1) **ヤマ神の由来**：倭 倭 や邪馬台国のヤマは、前回投稿文で紹介した古典 skt. とインドのヴェーダ (神の賛歌) の伝来の神で、古代中央アジアの遊牧民の神であるイマとイメーがインドに伝わってヤマとヤミーとなり、古事記では**伊邪那岐命**「夫の人間の暮らしを支配する命 [is (イーシュ) 支配者/sahacari (サハチャリー) 配偶者/nara (ナラ) 人/grha (ギハ) 家の切盛り/命：天の神]」、**伊邪那美命**「妻の人間の死を支配する命 [is (イーシュ) 支配者/sahacari (サハチャリー) 妻/nara (ナラ) 人/mr (ミ) 死/」]です。仏教では、ヤマは閻魔です。

(2) **大八島に隠された秘密**：日本の来歴を示す神線、ヤマの形・和数詞の起源 (図一1、2 参照)
古事記の国生み神話で、伊邪那岐命と伊邪那美命が大八島を淡路の穂の狭別島から左廻りに、伊豫の二名島・隠岐の三子島・筑紫島・伊伎島・津島・佐渡島・大倭豊秋津島の順に固成される。次いで還る時に吉備児島・小豆島・大島・女島・知詞島・両児島を固成されます。進んだ順に島々を辿ると五本の線 (以下、神線と言う) が存在します。この大八島と六つの島の名前を古典 skt. で読み解くと、日本の起源神ヤマの形と教義、和数詞の起源、守護神が隠れています。

(3) **ヤマの形**：図一1の凹凸は二柱の命・大八島はヤマの化身：人の形＝淡路島：生殖器、四国：お尻、隠岐の島：手足、九州：頭、壹岐島：目、津島：口、佐渡ヶ島：太腿と腕、本州：胴・血肉、吉備児島：心臓・心、小豆島：光明、周防大島：火、姫島：水、五島列島：風、男女群島：天界

(4) **ヤマの教義**：14の島々に靈魂不滅・輪廻転生を示す人生の期と五大元素 (誕生、子供、結婚、家族、名声、引退、昇天、雨水、神判、輪廻と解脱) が隠されています。

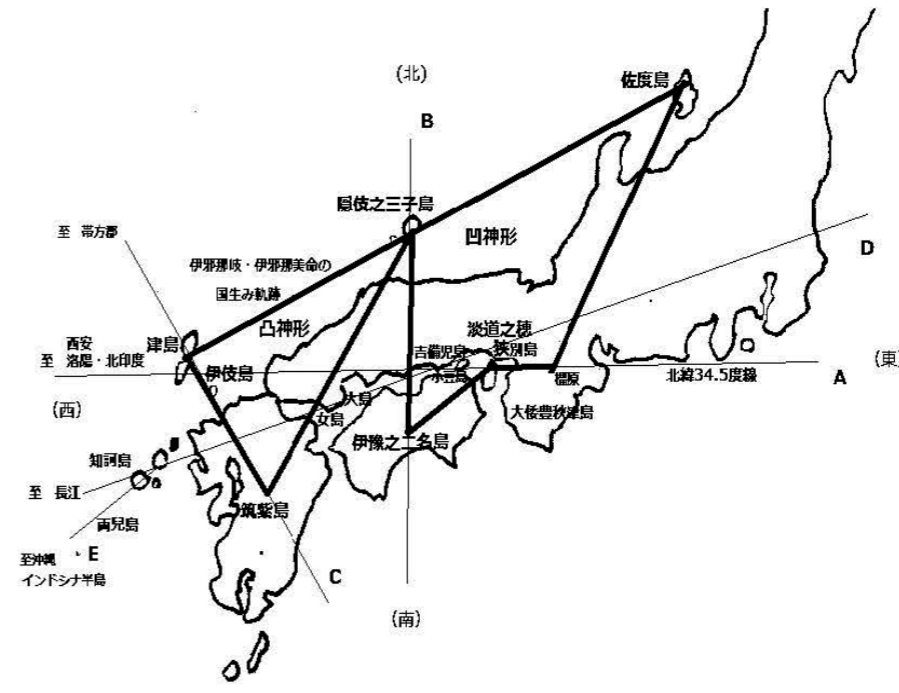
(5) **五本の神線** (図一1 古事記の神線)
神線 A 北緯 34.5 度沿線上で、大倭豊秋津島の中心の奈良県橿原・桜井、淡道の穂の狭別島、小豆島、吉備児島、津島などを通る東西線。東側は、春秋分日の朝日の昇る伊勢方面から太平洋に延び、西側は、同じく夕日の沈む津島、中国の後漢・魏の都の洛陽から遠くヒマラヤ山・チベット、ヴェーダの発祥地とされる北インドに達します。つまり、倭と中国・北印度などとの繋がりを示します。なお、淡路島の伊弉諾神宮の石盤に、この線が「陽の道」として刻されています。

神線 B 北極星に向く南北線で、伊豫の二名島の土左土左国から出雲国、隠岐之三子島を通る神線です。北極星を指し神線 A に直交します。古代日本の方向、時間を示します。

神線 C 高千穂峰から伊伎島・津島を通り帯方郡に至る朝鮮半島との文化交流線です。
神線 D 吉備児島・小豆島・大島・女島・知詞島・両児島を通り、A の東西線と吉備児島で交差する角度は、天球の赤道と黄道 (太陽の年周運動の行路にあたる大円) の秋・春分点の交差角 23.4 度に近似しています。西への延長線は、長江方向を指し沿岸からの渡来人の方向を示しています。

神線 E D 線の西端の知詞島から少し南に反れて両児島へ分岐する線は、インドシナ半島に至る弥生人の渡来ルートで、線上の沖縄にもある古典 skt. の伝来ルートです。

(6) **大八島国の言葉**：和数詞の起源：古典 skt. と漢字の融合の形
和数詞の一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、万の訓音の起源で十四の島の名前に隠されています。訓読みは、漢字の解字を古典 skt. で示したものです。表一1 参照
参考 ヤマの身体・教義、人生の住期等の skt. 表記は、全国邪馬台国連絡協議会「私の邪馬台国論」の投稿文を左の HP・QR コードからご参照下さい。 <http://zenyamaren.net/>



図一1 古事記の神線
◎A 線：弥生人の渡来線 中国・インド・チベット
◎B 線：北極星へ向く
◎C 線：朝鮮半島
◎D 線：長江へ向く：稲 吳音の言葉
◎E 線：インドシナ半島 へ向く：skt.
◎凸凹は二柱の命の姿



図一2 大八島に描かれたヤマの教義 (輪廻と解脱) と和数詞の起源
◎大八島はヤマ神を人間の姿 (身体部分) で現わした化身
インドの宇宙思想、大地・火・水・風・天の宇宙の五大元素と併せ、輪廻が描かれています
◎ヤマの教義：人生の住期 (運命) ①誕生～⑦魂の昇天、⑨神判 ⑩輪廻と解脱、⑭天界

表一1 ユーモラスな和数詞の起源 注 下線のひら仮名文字が数字の訓読み

淡道之穂 (淡路島) 一	訓音ひと；吳音イチ／漢字の解字：横に引いた一本の線
①アワジノボ；二本線を切る [āvāli (ア-ワリ) 線/dvi (ヂ) 二/nānā (ノ) 別々/pāta (ボタ) 切断]	②【言換え】 <u>ひと</u> ；二辺を切分ける [vichid (ヒチド) <u>ニ</u> = <u>一</u> と <u>一</u> 切り分ける/dvāyānta (トヤ-ンタ) 二辺]
伊豫之二名島 (四国) 二	訓音ふた；吳音ニ／漢字の解字：一をふたつ重ねる
イヨノふたの島；連なる大きな出っ張るお尻の島 [iyat (イヤト) それ程大なる/nah (ナフ) 結ぶ・縛る/puta (フタ) お尻/nam (ナム) 出っ張る/] 二つの大きなお尻	
隠岐の三子島 (隠岐の島) 三	訓音み；吳音サン／漢字の解字：一を三つ重ねた形
オキノみつゴの島；引かれ対にならない三つの手足の島 [ā-krṣ (オキシユ) 身体を引っ張る/nānā (ノ) 異なった/mithuna (ミツナ) 一對/gātra (ゴトラ) 手足/]	

令和5年度城陽市歴史民俗資料館 年間事業計画 (概要)

令和5年度の城陽市歴史民俗資料館の年間事業計画の詳細は確定していませんが、概要は下記の通りです。変更になることもありますので、ご承知おきください。

展示関係

常設展示室では、従来からある城陽の歴史や古墳からの出土品の展示の他に、民俗コーナーや近世コーナーでは、季節や時期にあったテーマの資料を紹介します。特別展示室では春季は市内古墳の紹介と城陽市の発掘調査の速報展を、夏季と秋季はそれぞれ、テーマを決めて特別展を開催いたします。また、冬季は昔のくらしとそれに関連した展示を開催します。

普及活動

各展示会では、体験教室や講演会を会期中に2回程度実施します。また、年間を通して体験教室や考古学教室、勾玉づくりなど実施します。尚、実施日や内容などにつきましては資料館のホームページや広報じょうようなどを通じて事前にお知らせします。

友の会ボランティア活動のご案内

友の会では勾玉づくりや古文書整理などお手伝いいただけるボランティアを随時募集しています。活動の内容は、勾玉づくりの際の体験参加者の支援や寄贈された古文書の確認や清掃作業などで、計画された日程を見ていただき、ご都合のつく回に参加していただければありがたいです。

初めての方でも、ベテランのボランティアの方から教えていただけます。ボランティアをきっかけに新たな人と人とのつながりも生まれます。

ボランティアの登録は随時おこなっていますので、興味のある方は下記へお問い合わせください。

会員募集中!

城陽市歴史民俗資料館友の会では、研修見学会、文化財講座、古文書講座、仏像講座等いろんな企画を計画しています。ぜひお友達、お知り合いの方にご紹介ください。

歴史民俗資料館年間事業
友の会ボランティアについてのお問い合わせ
城陽市歴史民俗資料館
電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612



城陽市歴史民俗資料館友の会だより 第50号

発行日 令和4(2022)年12月11日
編集 城陽市歴史民俗資料館友の会広報
連絡先 城陽市寺田今堀1番地
城陽市歴史民俗資料館
電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612
www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/

筑紫島 (九州) 四	訓音よ: 呉音シ / 漢字の解字: 口をあけて中が見えるさま
①ツクシの島: 口を裂く島 [tuŋða (ツンダ) 口 / kuŋ (クシ) 裂く] 解字と同じ	
②【言換え】よ: 欠伸 [yoga-šāyin (ヨガシャーイン) 瞑想の結果眠くなる]	
伊伎島 (老岐島) 五	訓音い: 呉音ゴ / 漢字の解字: 糸巻き器の形や交差する意味
いキの島: 王を引回す島 [iśvara (イ-シュワラ) 王 / kṛṣ (キシ) 引き回す / 王の文字の中央の辺を引き廻して五、王は糸巻と糸に似ているのか]	
津島 六	訓音む: 呉音ロク / 漢字の解字: 家の入口の形
① 津島: 家の入口の島 [tuŋða (ツンダ) 口 /]	②【言換え】む [mukha (ムカ) 口・入口 /]
佐度島 七	訓音なな: 呉音シチ / 漢字の解字: 一つのをまん中からたち切る
①サドの島: 半分に切る島 [śakala (サカラ) 半分 / dā (ド) 切る /] 半分に切る	②【言換え】なな: 別々に裂く島 [nabh (ナブ) 裂く・割る / nānā (ナーナー) 別々 /]
大倭豊秋津島 (本州) 八	訓音や: 呉音ハチ / 漢字の解字: 背きあう二つの線で分かれる
オホヤマトトヨアキツ島: 広がるヤマの胴の血・水の軸が動かされた島 [ābhoga (オホガ) 広がる / yama (ヤマ) ヤマ神 / dhātu (トツ) 血肉: 胴 / toya (トヤ) 水 / akṣa (アクシア) 軸 / īr (イール) 動かす / dhuta (ツ) 移された /] 水はヤマの血液	
吉備児島 九	訓音ここの: 呉音ク / 漢字の解字: 手の肘の曲がった形、屈曲して尽きる形
①キビのこ島: 引折れた先端の島 [kṛṣ (キシ) 引く / bhid (ビド) 折る / koṭi (コチ) 先端 /]	
②【言換え】ここのつ: 曲った先端は消滅 [kautilya (カウチルヤ) 屈曲・虚偽 / koti (コチ) 先端・詐取する / nāśa (ナシャ) 消滅・零落 / ā-dhūta (オツータ) 放棄] 虚偽は神判で地獄に落ちる	
小豆島 十	訓音と: 呉音ジュウ / 漢字の解字: 糸を通す穴のある針の形又は針の意
①アズキ島: 針を通る糸の島 [antar (アントル) の中 / sūci (スーチ) 針 / kiti-ja (キーチジャ) 絹糸 /] 魂は小さい	②【言換え】と: 解脱の島 [a-duḥkhita (アツキタ) 無苦] = [moktum 解脱] と: 十 = 解脱 [tāraka (トラカ) 解脱] 輪廻からの解脱は針の穴を通るほど困難
大島 (周防大島) 百	訓音おほ・もも: 呉音ヒャク / 漢字の解字: 一と音の白を合わせ大きい数
①あほ島: 一日と矢 [aho-rātra (アホロトラ) 一日・昼夜 / bāna (ボナ) 矢 /] = 百の島	②【言換え】もも: 大きい [mātra (モトラ) 大きさ / mātra (モトラ) 大きさ /]
大島の守護神 大 ^{おほたまるわけ} 多麻流別は悪を燃やし絶滅する火の神	
女島 (姫島) 吊	訓音つる: 呉音チョウ: 中国では「吊」の略字、日本では「吊る」は別字
①ヒメ: 雨雲の島 [vr̥ṣṭi (ヒスチ) 雨 / megha (メーガ) 雲 /]	②【言換え】ツ一島: 水を量って撒く [tūya (ツヤ) 水 / tul (ツル) 量る / dhu (ツ) 撒く] 水を撒く単位
知詞島 (五島列島) 千	訓音ち: 呉音セン / 漢字の解字: 一と人
ちカ島: 天を切る島 [chid (チド) 切る・除く / kha (カ) 天 /] 風	
両兒島 (男女群島) 萬	訓音よろず: 呉音マン / 漢字の解字: さそり (蠍) の形
①フタゴの島: 尻を天に向ける島 [puta (フタ) 尻 / dhā (ター) 据える / gola (ゴラ) 天体 /]	②【言換え】よろず: 尻を天に進む島 [yā (ヨ) 前進 / lāngūla (ロングーラ) 尾 / dyu (ツ) 天 /]